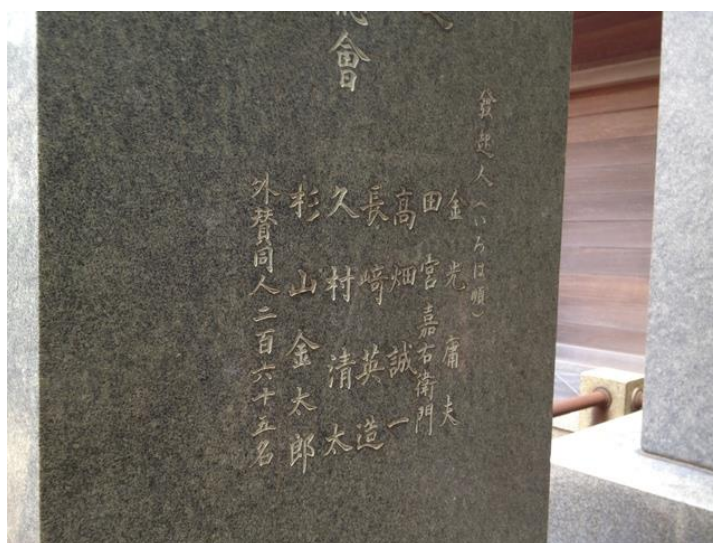


<金子直吉翁・柳田富士松翁頌徳碑>



金子直吉頌徳碑（右）、柳田富士松頌徳碑（左）



頌徳碑裏面の発起人氏名（金光庸夫、田宮嘉右衛門、高畑誠一、長崎英造、久村清太、杉山金太郎 他賛同人 265名）

金子直吉翁頌徳碑および柳田富士松翁頌徳碑は、昭和 25(1950)年鈴木商店元社員（有志）並びに元関連企業による「頌徳会」により両翁の偉業を頌えるため、鈴木商店ゆかりの祥龍寺に建立された。

◇金子直吉翁頌徳碑文

金子直吉翁は、土佐の産。資性高潔識見高邁、奇策縦横の士也。  
身を貧婁に起し苦学力行す。21歳の時、神戸鈴木商店に仕え、終生献身忠誠を盡くす。

同店が50有余の事業会社を興し、之を海外貿易に結合して驚異の世界的発展を遂げ、  
其の名声を四海に轟かし、或いは第一次世界大戦当時の日米船鉄交換の如き何れも翁の  
天稟と努力に因る。

而して翁伝統の遺業は、帝国人絹、神戸製鋼、播磨造船、豊年製油、クロード式窒素  
工業等皆人口に膾炙し、其の商略店風は日商産業等に継承せられ、各々国家に貢献する  
處頗る大なり。

晩年同店蹉跌の後、太陽産業に據り挽回に奮闘したるも惜しいかな業半ばにして逝く。

維持昭和19年2月26日 享年79歳也。

<柳田富士松翁頌徳碑>

柳田富士松翁は、大阪の狭商・松原恒七の長男に生まれ、姻戚柳田家を嗣ぐ。資性謹  
直質朴穩健の士なり。

19歳の時、鈴木商店に入り、店主夫妻の薫陶を愛く。

長ずるに及んで同店砂糖部を擔任し、店主没後は専らよね刀自を佐け、大いに才腕を  
振るい商権を拡張して主家発展の基礎を築き、金子翁共に同店の二大柱石として世に知  
らる。

金子翁が天衣無縫の躍進の陰には常に翁が緊密周到の守備あり。

生管鮑<sup>かんぼう</sup>の交わりをなし、互いに輔佐扶掖<sup>ほさふえき</sup>し、克く我が財界に鈴木商店の大をなさしめ  
たり。

昭和3年2月9日 脳溢血の為に逝く。 享年62歳也。